

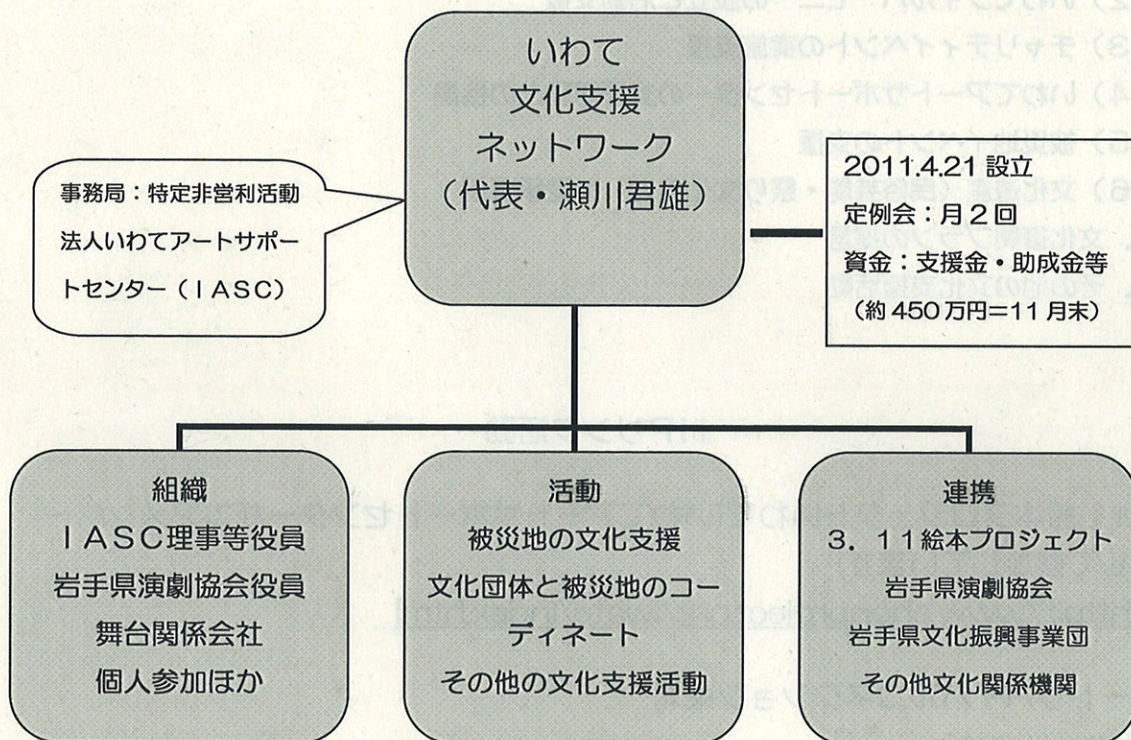
いわて文化支援ネットワーク

【活動趣旨】

いわて文化支援ネットワーク（以下「ネットワーク」）は、東日本大震災で被災した地域の文化芸術による様々な支援活動を行う。

大震災によるイベント開催の中止や自粛や経済活動の低迷によって、被害の大きかった沿岸地域のみならず被災県全体の文化芸術活動が著しく低迷している。地域復興には

文化芸術面からの復興も欠かすことが出来ない。人々は文化芸術による心の糧や次代への記憶の継承も必要としている。ネットワークではこうした地域の文化復興活動を支援・推進する。



【構成・規約】

趣旨に賛同する岩手県内の文化団体・個人により構成され、代表は岩手県文化芸術コーディネーターの委嘱団体である特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター理事長。経理及び監査等はIASCの規約に準拠。

【協力連携】

各種文化団体やNPOのほか、岩手県生涯学習文化課・NPO文化国際課、岩手県文化振興事業団、岩手県芸術文化協会等県内関係機関やAVN（アートビジョンネットワーク・東京・震災文化支援ネットワーク）や日本演出者協会、アーツエイド東北等県外文化団体と協力連携をはかる。

【資金】

寄附金・各種助成金・補助金・IASCからの拠出金（事務経費の一部に充当）
その他の資金（入場料ほか）

【活動計画】(別添活動内容)

1、各種の文化支援活動への参加・サポート

(1) 3.11 絵本プロジェクトいわてへの参加

(2) 次代をになう子どもの文化芸術体験事業岩手県実行委員会への参加

(3) その他支援

2、文化支援資金の募集

3、文化復興イベントの開催計画

4、被災地からのニーズとのマッチング

5、文化イベントの実施・支援

(1) コンサート・演劇公演・美術展等の実施支援

(2) いわてフィルハーモニーの設立と活動支援

(3) チャリティイベントの実施支援

(4) いわてアートサポートセンターの支援活動との協働

(5) 被災地イベントの支援

(6) 文化遺産(民俗芸能・祭り文化含む)の継承支援

6、文化復興プランの提言

7、その他の文化支援活動

HPリンク活動

3.11 絵本プロジェクトいわて(いわてアートサポートセンターがコアメンバーとして参加しています)

→<http://www.ehonproject.org/iwate/index.html>

アトリバイバルコネクション東北

→<http://arct.jp/>

特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

→<http://www.ictnet.ne.jp/~arts/>

FANTASIA(寺崎巖=いわてフィル)

→<http://www.d3.dion.ne.jp/~tera2/>

R45 演劇海道(こむろこうじ=岩手県演劇協会副会長)

→<http://kom-san.blog.ocn.ne.jp/r45/>

その他

いわて文化支援ネットワーク活動内容

(予定・検討中も含む)

2011.11.30 現在

○芸術鑑賞アシストプラン

「いわてフィルハーモニー」

被災地では学校の芸術鑑賞事業の中止が相次いだ。その理由はホールの被災は勿論だが、経費を復興経費に充てるため学校の文化予算が吸い上げられていることが大きい。県レベルではその代替経費負担は難しい。こうした小中学校等の鑑賞事業をサポートし、併せて二次被害を受けているアーティストの活動支援を行うため、盛岡のプロの演奏家を中心に、東京・仙台等からゲストを招聘し、管弦楽団「いわてフィルハーモニー」を編成した。

指揮は盛岡在住の寺崎巖(日本弦楽指導者協会理事)。演奏のほか、指揮者体験・演奏体験等のワークショップも行う。

「いわてフィルハーモニー」のアシスト公演は野田村、普代村、洋野町の3町村4ステージ(6月23日、24日の両日)。岩泉町小本1ステージ(10月29日)。

今後、いわてフィルハーモニーは、県内唯一のプロのオーケストラとしての活動を継続する予定。盛岡など内陸部でも公演を計画。公演収入が岩手県内ではあまり期待できないので、安定的な活動を支える資金調達などが課題となっている。

「その他」

大蔵流茂山狂言盛岡市中央公民館公演(被災者支援公演 10月30日)をサポートした。

○楽器アシストプラン

沿岸被災地で流失したピアノ等の楽器の新たな購入や修復、寄贈ピアノの配送などの支援を行う。なお、宮古市や山田町界隈で被害のあったピアノは約100台。仮設住宅ではピアノの音が障害となり、ヘッドフォンで聞く電子ピアノが必要となっている。多くの団体ではピアノ支援を行っているがほとんどは学校や幼稚園・保育園などへの支援で、ピアノ教室や個人へは個人の財産になってしまうという理由で支援は行われていない。

いわてアートサポートセンターではピアノ教室や個人を対象に支援を行っている。

資金は企業メセナ協議会のGBファンド助成と自主調達(支援金)。

これまで中古ピアノの斡旋 9 か所（配送・購入支援）、電子ピアノの購入 11 台、バイオリン 2 台、陸前高田市太鼓グループにバチ 20 セット、笛 10 本の購入支援を行った（支援経費総額 212 万円）が、まだ支援要望があり資金調達が追い付いていない。

○子どもの文化芸術体験アシストプラン

文化庁の表記事業岩手県実行委員会のメンバーとして参加、アーティストと被災地のコーディネート支援する。これまで、大蔵流茂山狂言・糸操り人形結城座・人形劇「トワワイルスタ」・劇団銅鑼・デイリリーアートサーカス（移動美術）などの活動を県内 20 か所にコーディネートした。

1 校 3 回以上の支援を行う文部科学省事業では「いわて文化支援ネットワーク」のコア団体である「いわてアートサポートセンター」が事業の受託し、県内 6 校で対応。宮古市では被災地の鵜が崎小学校で演劇ワークショップを行い。津波体験取材した創作劇を作った。

また、「いわてフィルハーモニー」の有志メンバーで、一本木小学校のワークショップを実施（11 月、3 回）。

上記 2 つの事業は今後も継続予定。

○伝統的イベントアシストプラン

全壊した陸前高田市の伝統行事（動く七夕）の支援。

動く七夕は、七夕飾りの山車を製作し大きな太鼓を打ち鳴らしながら練り歩く奇祭で、陸前高田市が全国太鼓フェスティバルを行う動機ともなった行事。例年、通常 12 台の山車が繰り出されるはずだが、残されている太鼓は修理中も含め 3 台。1 台の購入を支援するほか、太鼓フェスティバルの舞台製作の支援。他団体の助成活動のマッチング（真如苑・岩手県文化振興基金）を行った。

○伝統文化アシストプラン

地域で継承されている民俗芸能の復興や、地域のことばを活用した語り・演劇・朗読等で地域文化の継承をサポートする。

地域で伝承されている民俗芸能は、芸能保持者の被災・転出、用具の流失によって大きな痛手を受けている。岩手県は全国でも有数の民俗芸能の宝庫でもある。特に国の重要文化財で神楽宿を巡業する形式で特色ある宮古市の黒森神楽は、沿岸の神楽宿の多くを失っている。このため、県外公演のサポートや内陸部（盛岡）での神楽宿企画を支援する。

○被災地慰問及び支援公演アシストプラン

演劇においては、日本演出者協会や岩手県演劇協会と連携し、劇団等の派遣協力を行う。音楽においては「いわてフィルハーモニー」を核とした支援活動を行う。また、AVN（アートビジョンネットワーク・東京）や他の表現団体と提携し、美術・ダンス・文学等による支援活動を行う。

実績では「劇団キャラメルボックス」の慰問公演（10 月 12 日）を田野畑村に斡旋した。今後も、被災地とアーティストのコーディネート継続する。

○文化支援企画イベント（自主企画）

いわてアートサポートセンターと提携し、「12 の贈物」（小説集）の朗読劇を平成 24 年 1 月～3 月まで盛岡、沿岸、東京で実施する。

出演は県内アナウンサー、岩手出身俳優、いわてアートサポートセンター朗読クラブ、いわてフィルハーモニー（生演奏）ほか。

平成 24 年度は、沿岸被災地での復興文化イベントの実施を企画検討する。

○人材養成事業

被災地とアーティストを結ぶコーディネーターが不足している。また生活や福祉、学校分野と結ぶコーディネーターも同様である。人材養成と安定した活動ができるシステムづくりが必要とされている。

いわてアートサポートセンターは岩手県文化振興基金の助成を得て、養成講座を行う予定だが、自己負担分約 50 万円の経費が不足している。

○震災支援活動や被災地文化活動事業へのサポート

3.11 絵本プロジェクトいわてなど、他の文化支援活動・震災支援活動のサポートを行う。また、また、岩手県芸術文化協会ほかの文化団体と協力し沿岸被災地の劇団や音楽グループの活動支援を行う。

これまで、宮古市の劇団麦の会に支援した。

○岩手県文化復興プランの提言書の作成

長期的な視野に立った提言と震災と文化にかかるフォーラムを計画中。